

産教連通信

技術教育と家庭科教育のニュースレター

産業教育研究連盟発行
http://www.sankyoren.com

目次

□ 今夏の全国大会はどうなる？		1
□ シリーズ「学校現場はいま(15)」 答申は出して終わりでは意味がない	編集部	2
□ 連載「農園だより(54)」	赤木俊雄	4
□ 惜別の辞		6
□ 編集部ならびに事務局から		8

□ 今夏の全国大会(技術教育・家庭科教育全国研究大会)はどうなる？

本年(2021年)5月上旬現在、新型コロナウイルスは相変わらず猛威をふるっており、このウィルスの感染による死者が日本では1万人を超え、世界では320万人を超えています。このウィルスの変異株なるものが出現し、終息は当初の予想よりかなり遅れる見通しようです。こうしたコロナ禍のため、産教連の活動も相当大きな制約を受け、重要事項を審議するための会議の開催もままならない状況です。

例年開催している全国大会(技術教育・家庭科教育全国研究大会)の開催時期も近づいてきていますので、今夏の大会開催についてオンライン会議の中でも検討しましたが、明確な結論は出ませんでした。ただ、例年の開催時期である夏までに終息するという見通しが無い限り、通常開催は無理であることははっきりしてきました。

今夏実施の東京オリンピック・パラリンピックは、開催可能と見て準備を進めているようですが、産教連主催の全国大会については、例年どおりの形式の開催は事実上無理で、開催できる道を探っているところ

です。右の写真群は過去に開催された全国大会での一

場面です。こうした参加者の姿を再び目にすることができるのを強く待ち望んでいます。



過去の全国大会(技術教育・家庭科教育全国研究大会)での教材・教具・書籍類の展示風景

答申は出して終わりでは意味がない

編集部

中教審(中央教育審議会)で審議が進められていた「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」に関して、本シリーズ「学校現場はいま」の第12回(本通信第234号)～第14回(本通信第236号)の3回にわたって、その内容を紹介してきました。このたび、本年(2021年)1月26日に出された答申の総論部分についての解説資料が公表されました。今回はこれを取り上げますが、紙幅に限りがありますので、項目を中心とした紹介に止めさせていただきます。

1. 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

「社会背景」として“急激に変化する時代”がある。



「子供たちに育むべき資質・能力」として、一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要である。

ポイント: これらの資質・能力を育むためには、新学習指導要領の着実な実施が重要
これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、ICTの活用が必要不可欠

2. 日本型学校教育の成り立ちと成果、直面する課題と新たな動きについて

「日本型学校教育」とは、子供たちの知・徳・体を一体で育む学校教育
学習機会と学力の保障、全人的な発達・成長の保障、身体的・精神的な健康の保障

「新しい動き」として“新学習指導要領の着実な実施”“学校における働き方改革”
“GIGA スクール構想”がある。

＼「日本型学校教育」の良さを受け継ぎ、更に発展させる/新しい時代の学校教育の実現

3. 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿

2020年代を通じて実現を目指す学校教育

＼全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現/

「令和の日本型学校教育」における「子供の学び」の姿とは

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげ、「子供の資質・能力の育成」。

個別最適な学び【学習者視点】(＝個に応じた指導【教師視点】)とは

子供が自己調整しながら学習を進めていく。そのため、指導の個別化と学習の個性化をはかる。

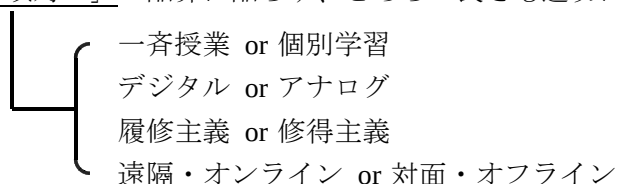
協働的な学びとは

子供一人一人のよい点や可能性を生かし、子供同士、あるいは地域の方々をはじめ、多様な他者と協働することで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す。

4. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性

学校や教師がすべき業務・役割・指導の範囲・内容・量の精選・縮減・重点化
学校と地域社会の連携・協働 —— 一体となって子供の成長を支えていく

「二項対立」の陥穽に陥らず、どちらの良さも適切に組み合わせで生かしていく



全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けて、改革に向けた6つの方向性

- (1) 学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する
- (2) 連携・分担による学校マネジメントを実現する
- (3) これまでの実践と ICT との最適な組合せを実現する
- (4) 履修主義・修得主義等を適切に組み合わせる
- (5) 感染症や災害の発生等を乗り越えて学びを保障する
- (6) 社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する

5. 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた ICT の活用に関する基本的な考え方

基本的な考え方

- (学校教育の基盤的なツールとして、ICT は必要不可欠なもの
これまでの実践と ICT とを最適に組み合わせしていく

Society5.0 時代にふさわしい学校の実現

- (1) 学校教育の質の向上に向けた ICT の活用
- (2) ICT の活用に向けた教師の資質・能力の向上
- (3) ICT 環境整備の在り方

この資料の詳しい内容については、下記を参照ください。

https://www.mext.go.jp/content/20210329-mxt_syoto02-000012321_1.pdf

■ パイナップル栽培の秘訣

……………2021年1月1日

2年前に挿し木をしたパイナップルに9個の実ができました。食べると甘い香りと酸味があります。

栽培が成功する秘訣は、「①挿し木をする、②直径が24cm 以上の大きい鉢を使う、③植える際には周りの土を手でしっかり押さえる(根の張りが弱い)、④11月には鉢を室内に入れる」ではないかと思います。

■ 紙芝居「コメを未来へ」の完成

……………2021年4月17日



私は、昨年、中学校を退職したのですが、今春、教えていた中学生が卒業しましたので、「コメを未来へ」と題する紙芝居を卒業生といっしょに作りました。

実は、この生徒たちは、1年生時にバケツ稲をしました。そのときの感想文を集めてミュージカルを作る予定でしたが、紙芝居に変更しました。

■ 子どものすばらしさに改めて感じ入る

……………2021年4月28日



先日、倉敷市立自然史博物館友の会主催の鷺羽山自然観察会に参加しました。向かい側は四国です。瀬戸大橋を眼下に見ながら、松の香り漂う海風の中で、草木や昆虫を観察しました。

参加した子どもたちは、植物の特徴をよくつかみ、ひらめきで案内者と受け答えしていました。子どもの理解や記憶が優れていることを目の当たりにしました。それに引き替え、私はいろいろなことを考えて

てしまい、新しいことをなかなか吸収できません。パソコンなども使いこなせないのは、直感力の衰えだと感じた一日でした。

「技術教室」「技術教育」全号公開

産教連が編集していた「技術教室」誌が休刊となってから10年近くが経過しました。この間、新潟大学教育学部の鈴木賢治氏および同学部技術科の学生の尽力により、「技術教室」ならびに「技術教育」の公開版が完成の運びとなっています。技術教育・家庭科教育の実践・研究に大いに役立つものと期待されます。産教連のホームページからアクセスできますので、活用をお勧めします。

(編集部)

寺田寅彦の「ラジオ雑感」を読んで

はじめて聞いたラジオから聞こえる、あのガーガーという音に辟易して我慢ができず、ラジオを購入する気もなかったが、ある日、郊外でラジオから聞こえたバイオリンの音が心地よかったため、ラジオを購入することになった。

ところが、しばらくして、そのラジオ受信機が故障したので、ラジオ屋に修理に出したところ、感度が悪くなって戻ってきた。内部を調べてみると、蜘蛛の巣形のコイルがある。どうも、適当にコイルを巻き直したため、インダクタンスが合っていないようである。

さて、ここからが本題である。寺田寅彦の随筆にあったトリルダイナ受信機とはどんなものなのか、インターネットで調べてみた。すると、「三極管のレフレックス受信機：高周波増幅して検波した電流を同じ真空管で低周波増幅し、スピーカを鳴らす。再生受信機はその後に発明された」などというように確認できた。

「トリルダイナ」とははじめて聞いた言葉だが、気楽に調べることができた。ところが、いつも理解し難い言葉がある。パソコン用語の「デバイス」「アドレス」などである。日本語に直すと「道具、機器、パソコンの周辺装置」「発信位置、受信位置」だが、何十年たっても英語から日本語に直して使えない。最近は日本語に変換せずに受け入れるようにしているが、難しい。(岡山・赤木俊雄)

ミャンマーの子どもたちを見て思う

今日は子どもの日です。世界の子どもを紹介しているテレビ番組があり、視聴してみました。画面にはミャンマーの軍事独裁政治に対する抗議活動をしていた14歳の少女が射殺されたことを報じる様子が映し出されていました。

今、ミャンマーでは、抗議行動に参加した子どもが軍によって今までに何十人も殺されています。ミャンマーの人々は、世界各国に対して、軍事政権に抗議行動を起こすことを要求しています。私もその願いに少しでも応えたいと思い、この文をしたためています。

中学校か高校の国語で「ビルマの堅琴」を学習しました。あらすじは確か次のようだったと記憶しています。「第二次世界大戦時、ビルマ(現在のミャンマー)に侵攻した日本軍が、敗戦後、日本に帰還するとき、日本軍兵士の水島上等兵は、日本には帰らずにビルマで仏門に入り、供養をする道を選んだ」。

現在、その国のできごとが世界中に伝えられています。私は、いま何をすべきかを考えています。(岡山・赤木俊雄)

平野幸司先生を偲ぶ

産業教育研究連盟事務局長
野本 恵美子

「大会中はこの赤い T シャツを着ていますので、僕を捜して会費を納めてください」これが、平野幸司先生という、最初に私の頭に浮かぶ姿です。私がはじめて産教連主催の全国大会に参加した第32次大会(1983年夏、静岡県熱海市にて開催)のときでした。それからしばらく平野先生の会計担当は続き、産教連の会計を長く務めてくださいました。

平野先生は、中学校の「職業科」の商業担当の教員として、東京都で勤務を始めました。その当時、「職業科」は農業・商業・水産・工業・家庭の領域からなり、1958(昭和33)年に「技術・家庭」と変わりました。このとき、職業科の教員は「技術科」の担当となり、夏休みなどの時間を利用して緊急に技術科の内容の指導者講習が行われました。木材加工、金属加工、電気、機械、栽培と、今までとは全く異なる内容を教えることになって、かなり勉強したと聞いています。製図をはじめ、金槌や鋸などの工具の使い方、ボール盤や旋盤などの大型機械の操作方法など、自分は使えても教えるのはまた別です。それまでの商業の授業と全く異なる内容に、大きな戸惑いを感じながら生徒の前に立つことになりました。そんな自分を磨くため、各地で開かれる研究会や研修会などに参加するなかで産教連と出会ったのです。

その頃、全国大会では実技コーナーが実施されていました。先生は、このコーナーの木材加工や電気の実習に取り組み、自らの力量の向上に役立てていました。先生の持っている几帳面さから、工具類を整理する工具箱や生徒にきちんと片付けさせる工夫など、いろいろなことに気を配り、技術科の教員としての力を蓄えました。また、自分の授業を録画することにも取り組みました。東京都八王子市立梶田中学校在任中、同じクラスの授業を何週かビデオに録画し、「自分の授業を見直す」ということを行いました。これは、何かの研究会のためではなく、あくまでも自分の授業研究のために行われたものです。授業後にビデオを見直し、授業の進め方を検討し、授業をよりよくするための研鑽を重ねていました。

そして、この頃から地域の子どもたちのために夏休みこども工作教室に参加し、講師として多くの子どもたちの指導に当たりました。本立てをはじめとして、カセットラックや CD ラックなど、毎年、教材の工夫をして、参加する子どもたちがわくわくするような題材を準備したそうです。また、道具の使い方も丁寧に教え、先生もこどもたちもこの催しを楽しみにしていたようです。

また、技術科の教師という立場を離れ、八王子第九を歌う会にも参加し、毎年12月には演奏会に参加していました。病に倒れてからも、「第九を歌う」「舞台に立つ」ことを目指してリハビリに努め、2017年12月には東京都立川市のホールでそれを実現させました。

さらに、自然環境への関心も高く、圏央道の建設に際し、「高尾の自然を守る」ため、計画の見直しや反対を訴える活動にも当たっていました。教師という立場だけでなく、環境や地域のこと、そして、自分自身を高めるため、休むことなく歩み続けました。

先生は2018年9月19日、83歳にて永眠されました。

池上正道先生を悼む

産業教育研究連盟副委員長
三浦 基弘

池上正道先生は、産教連では技術科教師としての顔だが、別な顔もある。全国進路指導研究会(全進研)の創立メンバーで、初代常任委員長を歴任。全進研を立ち上げたのは、ご自分が進路に迷ったから、同じ轍を踏まないように、子どもたちに適切な進路指導をしたいと思ったからだ、その理由をお聞きした。池上先生が1963年の会創立当時、東京都新宿区立四谷第二中学校で、中卒で就職した若者たちを励ます「あすなる会」を発足。その取り組みの様子が記録された映像が残っている。NHK「日本の素顔—現代の子どもたち」(1963年5月5日放映)が、2007年7月に「NHK アーカイブス」で再放送された。若き在りし日の池上先生が、黒板の前で子どもたちの話を聞きながらメモをとっている姿がそこに映っている。30分の番組で、インターネットで「池上正道、全国進路指導研究会」で検索すると、画像を見ることができる。

先生は、2020年3月9日、多臓器不全で亡くなられた。享年90歳。1929年、大阪市生まれ。1948年4月、浪速高等専門学校(現大阪府立大学)に入学。卒業と同時に、大阪府立大学教育学部理科、物理学の助手に採用。その後、上京。最初の赴任校は四谷第二中学校。勤務しながら、都立大学人文学部文学科を専攻し、1961年卒業。

学究肌で、第35次全国大会(1986年夏、神奈川県鶴巻温泉にて開催)で、キューン形キューンの蒸気機関車とボイラーの側面に首振りエンジンをつけた蒸気機関車を、対比して熱機関の指導と技術史指導の大切さを述べられた。雑誌「技術教育」「技術教室」に実践記録を投稿されたのはもちろんだが、「教育時評」を休むことなく、1980年5月号から休刊になるまで340回も連載された。

長い間、常任委員を務めてくださり、82歳までご指導をしていただいた。産教連が加盟する団体に日本民間教育研究団体連絡会(日本民教連)があるが、全進研の代表として、長く役目を果たされた。特に、日本民教連の機関誌「民教連ニュース」の編集委員として長く関わられた。また、池上先生は日本教師教育学会や日本技術史教育学会などにも所属し、数多くの論文を発表されている。さらに、立正大学、帝京大学、東京都立大学、立教大学などで非常勤講師として教鞭をとられた。経済学者の池上惇京都大学名誉教授は実弟で、全国大会で2回、講演していただいたことがある。

実は、個人的に相談されたことがある。20年前、小菅智淵こすげともひろの業績が載った冊子を持って来られ、法事の時に関係者に配付したいとのこと。小菅は明治時代、陸軍工兵隊の創成者で、参謀本部の初代陸地測量部長を務めた人物。冊子は和紙で、複製は難しかったが、岩波書店の友人 S さんに頼み、20数部作ってあげたことがあった。また、小菅は測量史でも著名な人物。交渉して、日本測量協会の月刊誌「測量」(2005年3月号)の表紙に飾った。池上先生に喜んでいただいた記憶がある。池上四郎元大阪市長、秋篠宮文仁親王妃紀子さんのご親戚でもある。ご冥福を心からお祈り申し上げます。

□ 編集部ならびに事務局から

産教連通信の執筆要項を産教連のホームページ上で公開しています。この規定に沿って、原稿をどしどしお寄せください。原稿の送付先は編集部(下記参照)です。お待ちしております。

さて、毎号のようにお知らせしていますが、昨夏の大会は中止となり、それにあわせて連盟総会も開催延期となっています。関連して、会計年度も次の総会まで同一年度として扱うことになっています。**今までの会費が未納の場合は、お手数でも会費納入をよろしく願います。**

また、人事異動や転居などで住所・電話(FAX)番号・勤務先などに変更があった場合には、ご面倒でも、すみやかに事務局までご連絡ください。また、メールアドレスの変更についても、同様に連絡をお願いします。

編集後記

中国の武漢に端を発した新型コロナウイルスによる感染は、その後の感染拡大によって、世界中が感染の渦に巻き込まれたままの状態が続いています。その影響で、世の中の状況は一変したと言ってよいでしょう。真夏でもマスクの着用を余儀なくされ、オンラインによる会議や学校の授業は当たり前になりつつあります。

こうした状況下では、当然のことながら、産教連の活動も大きな制約を受け、満足のいくようなものはほとんど実施できずに1年以上が経過しています。産教連設立から70年余りの研究活動の成果をまとめたものとも言うべき書籍の出版へ向けての準備と産教連通信の発行がかりうじて行われているに過ぎません。団体としての活動が再開できるような状況に早くなってほしいと誰もが願っていることでしょう。

さて、前号に引き続き、産教連の研究活動を支えて来られたお二人の追悼文を掲載させていただきました。(金子政彦)

産教連通信 No.57 (通巻 No.238)

2021年5月20日発行

発行者 産業教育研究連盟

編集部 金子政彦 〒247-0008 神奈川県横浜市栄区本郷台5-19-13

☎045-895-0241 E-mail mmkaneko@yk.rim.or.jp

事務局 野本恵美子 〒224-0006 神奈川県横浜市都筑区荏田東4-37-21

☎045-942-0930

財政部 藤木 勝 郵便振替 00120-8-13680 産業教育研究連盟財政部